

## 令和 5 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策 の方 向性	事業名	主な実績
A	大阪府芸術文化振興補助金	<p><b>【概要】</b> 子どもや青少年を中心とした府民に、優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う活動に補助金を交付する。(上限 100 万円) ※大阪府文化振興基金を活用</p> <p><b>【実績】</b> ○令和 5 年度分 応募 44 件、採択 12 件 ○令和 6 年度分 応募 44 件、採択 13 件 ○事業説明会の開催（参加団体：16 件、内 12 件新規） ○個別相談会を開催（参加団体：7 件、内 5 件新規） ○事業説明の動画配信を実施 ○今年度より事業説明会・個別相談会を夜間に開催したことで多くの新規事業者に参加いただくことができた。事業説明会では、昨年度のアンケート結果を踏まえて審査ポイントの説明時間を長くするなど、内容を充実させたことで参加者からも好評を得た。 ○令和 6 年度事業の実施においては、新規応募者を増加させるため、文化関係者へ一層の周知が図れるよう広報物（パンフレット・ポスター）の配架先や配架部数を見直すとともに、パンフレット内で採択事業の一例を紹介したり、採択事業の紹介動画を作成し府の HP に掲載するなど、応募者に具体的な事業イメージを持っていただけるよう努めた。その結果、新規応募者の増加を図ることができた。 ○次年度は新規事業者が補助金事業の内容をより理解し、申請しやすいような方法（申請様式の見直し）等を検討していく。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b> ・昨年度に実施された事業説明会は、平日の昼間に開催されたが、参加を希望する多くの方々にとってアクセスが困難であるという課題があった。これを踏まえ、本年度はより参加しやすいように、平日の夜間に開催するという改善が施された。この変更は、より多くの関心を持つ方々に事業への理解を深めてもらうための有意義な一歩であると考えられる。 ・昨年度の事業評価において指摘された申請者の申請書のリテラシー不足に対応するため、説明会では補助金事業の細かな説明に加え、大阪アーツカウンシルの統括責任者から審査のポイントに関する話が提供された。また、申請者の不明点を解消するための個別相談会も実施されるなど、申請者支援の取り組みが手厚く行われた点は特に評価すべきところである。 ・しかし、一方で、本補助金に関する要項や書類様式はかなり古く、特に現代の文化芸術活動の多様性を反映していない。特に、美術・メディアアート・複合芸術活動など、幅広い分野の活動にとって現行の書類様式が使用しづらい状況にあることから、大阪府が本事業に対して求めるものを明確にし、申請者が活動の分野に左右されずに申請できるようにするために、要項や書類様式の更新が必要であると強く感じられる。 ・本事業は大阪府文化振興基金を財源としていることから、基金の今後の運営状況によっては、事業内容の見直し等について検討すべきであると考えられる。</p>
A	輝け！子どもパフォーマー事業補助金	<p><b>【概要】</b> 文化を通じた次世代育成を図るため、府内の子ども（おおむね 6 歳から 20 歳まで）が参加し発表する活動を実施する団体又は個人に対して補助金を交付する。(上限 30 万円) ※大阪府文化振興基金を活用</p> <p><b>【実績】</b> ○令和 5 年度分 応募 32 件、採択 17 件 ○令和 6 年度分 応募 20 件、採択 17 件 ○事業説明会の開催（参加団体：16 件、内 12 件新規）</p>

		<p>○個別相談会を開催（参加団体：7件、内5件新規）</p> <p>○事業説明の動画配信を実施</p> <p>○今年度より事業説明会・個別相談会を夜間に開催したことで、多くの新規事業者に参加いただくことができた。事業説明会では、昨年度のアンケート結果を踏まえて審査ポイントの説明時間を長くするなど、内容を充実させたことで参加者からも好評を得た。</p> <p>○令和6年度事業の実施においては、新規応募者を増加させるため、文化関係者へ一層の周知が図れるよう広報物（パンフレット・ポスター）の配架先や配架部数を見直すとともに、パンフレット内で採択事業の一例を紹介したり、採択事業の紹介動画を作成し府のHPに掲載するなど、応募者に具体的な事業イメージを持っていただけるよう努めた。その結果、新規応募者の増加を図ることができた。</p> <p>○次年度は新規事業者が補助金事業の内容をより理解し、申請しやすいような方法（申請様式の見直し）等を検討していく。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度の募集に際して、過去の申請件数の減少と新規応募の少なさが目立っている。この背景には、本補助金が求める「子どもたちの主体的な文化芸術活動」が、アーティストや文化芸術団体が既に行っている活動の延長ではないため、新規参入が困難になっている現実があるのではないかと。さらに、新しく子ども向けの文化芸術事業を立ち上げようとする個人のアーティストや団体にとって、資金や人材の不足は現実味を希薄にしていると考える。</li> <li>・現状、子どもたちの表現活動の機会提供を目指しているが、ワークショップなどの体験機会も含め、本事業の新たな方向性を模索する時期に来ているのではないかと。特に、大阪府内における文化芸術活動の地理的な偏りは深刻であり、文化芸術に触れる機会が少ない地域への配慮と支援強化が求められる。これは広域自治体としての大阪府に再認識が必要な課題である。</li> <li>・加えて、本事業は大阪府文化振興基金を財源としており、この基金の枯渇危機は事業の継続性を危うくしている。子どもや青少年が文化芸術を通じて成長する機会の提供は社会的に重要な意味を持つ。そのため、基金への寄附を促進するため本事業の成果の情報発信の強化や、企業や個人からの寄附を通じた子どもたちが文化芸術活動への触れる機会の創出に向けた取り組みの検討を強化してもらいたい。また、基金の今後の運営状況によっては、事業内容の見直し等について検討すべきであると考えられる。</li> </ul>
A	半額鑑賞会	<p><b>【概要】</b></p> <p>優れた舞台芸能・芸術を通常の半額料金で鑑賞する機会を府民に提供し、芸能・芸術愛好家の裾野拡大を図る。（※府、（公社）日本演劇興行協会、（独法）日本芸術文化振興会の3者の共催事業として運営）</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>○令和5年4・5月合併号、7・8月合併号、9月号、10月号、12月号、令和6年1・2月合併号、3月号の計7回掲載した。予定していた11月号が休刊になったため、11月号に掲載予定の記事は10月号と12月号に分散掲載した。</p> <p>○分散掲載があったものの、掲載を予定した記事はすべて掲載することができた。府政だよりを見た府民からは定員を超える多数の応募があり、抽選により当選者を決定した。</p> <p>○また、令和5年11月18日に日経新聞に掲載されるなど予期せぬ広報を行うことができた。府民、特に紙媒体に情報源を頼る世代への貴重な文化振興施策であり、次年度以降も継続して実施の予定である。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各劇場と連携し、大阪の文化芸術の鑑賞機会の充実向上を、予算をかけずに実施できる制度の整った事業である。平成22年度より取り組んできたとのことで、今後も続けて欲しい。</li> <li>・少子高齢化に伴い、芸術愛好者も高齢層が増加するため、最新の電子機器に慣れていない高齢の府民でも平等に受け取れる紙媒体である「府政だより」や新聞広告などでの周知は、プラスに働いており評価できる。</li> <li>・現在でも東京、福岡、大阪の三都府県だけの取り組みであり、全国的にも貴重な取り組みであり、今後も</li> </ul>

		継続して欲しい。
A	オーケストラハウスの管理	<p><b>【概要】</b> オーケストラハウス（服部緑地内）について、計画的な修繕の実施等により、適切に維持管理を行う。また、日本センチュリー交響楽団の練習拠点として、オーケストラハウスの練習室の貸付等を行う。</p> <p><b>【実績】</b> ○オーケストラハウスの施設管理については、適宜補修などを行った。 &lt;補修工事等&gt; <b>【6月】</b> 機械室排気ファン修繕、冷却水ポンプ修繕 <b>【7月】</b> 楽器庫1・2系統空調機の補修 <b>【10月】</b> 隠蔽型エアコンの補修、冷却水配管 Y ストレーナー清掃、便所内絶縁不良調査及び補修 <b>【12月】</b> ライブラリー室外壁補修工事 <b>【1月】</b> ライブラリー室空調機の補修、多目的トイレの自動水栓電池取替、照明設備補修工事 <b>【3月】</b> 非常用照明の取替修繕、誘導ランプの交換、中庭の雑木等の伐採、多目的トイレの不具合修繕</p> <p>&lt;定期点検&gt; <b>【9月】</b> 消防用設備機器点検、法定定期点検 <b>【3月】</b> 消防用設備総合点検</p> <p>○上記のとおり、法律上必要な点検や施設運営に必要な修繕など、適切な施設管理を実施した。 引き続き、施設を安全に利用できるよう補修工事等を行い、適切な管理に努める。</p> <p>○今後の施設の活用について、関係各所と調整を進めているところ。引き続き、施設活用における課題を洗い出し、課題解決に向けて調整を進めていく。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b> ・オーケストラやその他の大型の演奏団体にとって、練習拠点が確保されることは非常に重要なことである。これは、本施設を使用する楽団の芸術の水準を高めるうえのみならず、地域住民や子どもたちを含む幅広い層に対する成果の還元にも重要な役割を担っている。特に大阪では、このような施設が充実していることが音楽文化の発展に寄与しており、使用する楽団が充実した音楽活動を続けられることにより、地域の音楽文化の充実にも大きく貢献していると言える。 ・しかし、現在、施設の老朽化が進んでおり、補修が必要な箇所が増えてきている状況にある。これは、ただ修繕を行うだけでなく、施設の今後の活用方法についても考える必要がある時期に来ている。そのため、関係機関との調整や検討を行い、本施設が今後も音楽文化に資する取り組みとして機能し続けることを期待したい。</p>
A	メセナ自販機、OSAKA メセナカード、大阪府文化振興基金	<p><b>【概要】</b> 寄附型自販機（メセナ自販機、次世代育成型メセナ自販機）や寄附型クレジットカード（OSAKA メセナカード）の普及促進、基金への寄附文化の機運を醸成する。</p> <p><b>【実績】</b> ○次世代育成型メセナ自動販売機の設置場所開拓のため、府立学校事務長幹事会に出向いて営業を行ったほか、各府有施設に対しても電話で営業を行った結果、令和6年度より新たに3施設・計4台の次世代育成型メセナ自動販売機を設置できる見込みである。 ○メセナ自動販売機の設置に向けて各飲料メーカーに営業を実施した結果、府内の専門学校に1台を新規設置することができた。 ○課の文化事業等で基金リーフレットを配布するとともに、基金HPを適宜更新するなど積極的なPRに努めたほか、広報グッズとして基金のロゴ入りのビニール袋も作成中である。 ○OSAKA メセナカードについては、提携いただいていたカード会社の事情により、令和5年度末をもって</p>

		<p>事業を終了することとなった。</p> <p>○R5年度の寄附収入は9,792,015円（前年度比 約239万円の増）となる見込みである。</p> <p>○次年度は、より広く効果的に寄附を呼びかけることができるよう、新たな広報パンフレットの作成などについて検討していく。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の事業評価において、大阪府文化振興基金は支出を上回る寄附の確保に苦戦し、基金の枯渇が懸念されていることを指摘した。しかしながら、府職員の積極的な働きかけの結果、令和5年度の寄附収入は前年度比で約239万円増の9,792,015円に達する見込みであり、その努力と成果を高く評価したい。</li> <li>・メセナ自動販売機と次世代育成型メセナ自動販売機の設置拡大のための積極的な営業活動により、令和6年度から新たに3施設に計4台の次世代育成型メセナ自動販売機を設置することが見込まれている。これらの自動販売機は、大阪の文化芸術の支援という目的に資金を提供する手段として効果的な役割を果たしていることから、継続した設置拡大のための努力を続けて欲しい。</li> <li>・また、基金の認知度向上と寄附文化の醸成のため、基金のロゴ入りビニール袋を広報グッズとして制作するなど、企業や個人が大阪の文化芸術を支えているという意識を持つことを目指すことは非常に意義のあることである。</li> <li>・基金の枯渇を完全に回避できたわけではないが、最悪の状況を避けるための重要な成果が本年度に達成されたことは、大いに評価されるべき点である。寄附文化を根付かせることは短期間で成し遂げられるものではないが、継続的な努力がこれからも求められる。大阪府文化振興基金としては、長期的な視点を持ち、持続可能な文化振興のために、引き続き様々な取り組みを行っていくことを検討して欲しい。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">A</p>	<p>大阪文化再発見事業</p>	<p><b>【概要】</b></p> <p>府民に対する生涯学習講座等を実施する。（阪神奈公開講座フェスタ、おおさかふみんネット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神奈公開講座フェスタ：府及び大阪、兵庫の大学・研究機関（20機関）でネットワークを組み、府県を超えた良質で高度な生涯学習機会の提供を行う。</li> <li>・おおさかふみんネット：府と府内市町村とのネットワークを構築し、生涯学習に関する情報交換及び広域的な学習機会の提供等の事業を行うことにより、生涯学習の総合的な推進を図る。</li> </ul> <p><b>【実績】</b></p> <p>（阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット）</p> <p>○「公開講座フェスタ 2023」</p> <p>期間：令和5年11月2日～11月19日のうち12日間</p> <p>場所：大阪府新別館南館8階大研修室</p> <p>講座数：全17講座（参加機関各1講座および特別講演1講座） 各講座定員100名</p> <p>参加者：延べ560名</p> <p>受講者満足度：75.2%（昨年度：73.3%）</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により使用休止となっていた大研修室の貸出が再開したため、令和元年（2019年）以来4年ぶりに大手前での開催となったが、昨年度と同水準の集客と受講者満足度を達成することができた。引き続き広報活動を強化し、パンフレットの配布先の検討や、構成員への積極的な呼びかけ等を行う。</p> <p>○受講者の年齢層が高齢化しており、今後も配慮が必要となる。</p> <p>（おおさかふみんネット）</p> <p>○「大阪府・大阪市共催講座 はじめての上方演芸」</p> <p>期間：令和5年11月29日（水）、12月8日（金）（2回連続講座） 各回定員50名</p> <p>場所：大阪市立難波市民学習センター 参加者：延べ75名</p> <p>○市町村への情報共有：5回実施済み</p> <p>○今年度から市町村における生涯学習事業に関するアンケートを実施（2回実施済み）</p>

		<p>○大阪府・大阪市共催講座は次年度も継続して実施する予定。 情報交換やアンケートについては実施方法や頻度等を検討していく必要がある。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、実施会場として選ばれた咲洲庁舎については、アクセスの問題に対する高齢者からの声が多く聞かれた。これは対面講座において、会場の立地が直接的に参加者数や満足度に影響を与えることの一例であり、この課題を受けて、本年度の会場をアクセスが良好な大手前にある大阪府新別館南館に変更するなど、開催場所の改善が図られたことを評価したい。</li> <li>・また、おおさかふみんネットで開催された「大阪府・大阪市共催講座 はじめての上方演芸」では、この講座は難波で開催され、開催時間が平日の夜だったため、より若い世代の参加が多かったと報告されている。このことから、講座トピックの選定はもちろん、開催場所や時間の設定にも若い世代を引きつけるための工夫が必要であるという示唆を得ることができる。</li> <li>・広域自治体として、文化振興における補完性の原理を遵守し、文化振興の取り組みに苦勞している市町村をサポートする役割も本事業が担っていることを忘れてはならない。本事業は、文化的な支援を必要とする地域に対して、大きな価値を提供している。そして、2025年には大阪・関西万博が開催されるが、本事業を通じて大阪府下の市町村に文化講座の情報を届け、大阪の豊かな文化と芸術に対する誇りを深め、シビックプライドの醸成につなげるという大きな展望を持って取り組むことを望みたい。</li> </ul>								
B	大阪文化芸術創出事業 (活動支援事業)	<p><b>【概要】</b> 新型コロナウイルスにより、舞台公演等の文化芸術活動に影響を受けたアーティストや文化芸術団体等の活動を支援するため、大阪府と連携し、公演や作品展示の実施にかかる施設使用料を補助する。 (府：150,000千円、市：150,000千円)</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>○申請件数・交付決定件数（府・市の予算を合計した実績）</p> <table border="0"> <tr> <td>・通期（R5.7～12の実施事業）</td> <td>2,105件・904件</td> </tr> <tr> <td>  うち第1期（R5.7～8の実施事業）</td> <td>652件・287件</td> </tr> <tr> <td>  うち第2期（R5.9～10の実施事業）</td> <td>642件・315件</td> </tr> <tr> <td>  うち第3期（R5.11～12の実施事業）</td> <td>811件・302件</td> </tr> </table> <p>○交付決定件数は、904件（通期）となり、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた文化芸術活動の回復につなげることができた。</p> <p>○公演系では音楽、落語、演劇など、展示系では美術を中心に補助制度の利用があった。</p> <p>○利用者アンケートの結果では、対象経費や実施期間などの制度の条件等について、約7割が「満足・やや満足」と回答しており、昨年度に続き利用者満足度の高い結果となった。</p> <p>○令和5年度第2期から設けた全事業不交付者に対する優遇措置については、約7割が「満足・やや満足」と回答しており、利用者のニーズに合った制度を導入できたと考えられる。</p> <p>○本補助により、「経費のバランスが取れた」「次の公演開催につなげることができた」との報告があり、文化芸術活動の継続・回復に寄与したものと考えられる。</p> <p>○3期を通して2000件を上回る申請があり、交付決定率は43%となった。</p> <p>○交付決定率は50%を下回ったが、申請数は昨年度（1,633件）を上回っており、昨年度よりも「本補助の周知が行き届いた」「申請できるような文化芸術の公演等が増えた」ことが推察される。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、文化芸術活動の状況も回復傾向にあること、さらに財源として活用してきた国の交付金の活用が見込めないことから、今年度をもって終了する予定であるが、制度やノウハウは、有事発生の際に活用すべく、今後もしっかり引き継いでいきたい。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたが、文化芸術業界は依然として厳しい状況に直面している。観客が完全に戻ることなく、多くの文化芸術活動が経済的な困難にさらされている状況である。ま</li> </ul>	・通期（R5.7～12の実施事業）	2,105件・904件	うち第1期（R5.7～8の実施事業）	652件・287件	うち第2期（R5.9～10の実施事業）	642件・315件	うち第3期（R5.11～12の実施事業）	811件・302件
・通期（R5.7～12の実施事業）	2,105件・904件									
うち第1期（R5.7～8の実施事業）	652件・287件									
うち第2期（R5.9～10の実施事業）	642件・315件									
うち第3期（R5.11～12の実施事業）	811件・302件									

		<p>た、新型コロナウイルスに対応するために実施されてきた多数の補助金や助成金が次々と終了していることから、文化芸術活動を継続する個人や団体にとっては、さらに厳しい状況に追い込まれていると言える。この困難な時期において、3年目に実施された支援は、大阪の文化芸術関係者にとって非常に大きな助けとなった。継続的な支援を実現できたことを高く評価したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録された会場の施設使用料に絞って支援対象を明確にすることで、迅速な支援を可能にしたこのスキームは、有事の際の文化芸術支援において大阪が誇るべきものと言える。本事業から得た制度やノウハウは、有事発生の際に活用すべく、今後もしっかり引き継いで欲しい。</li> <li>・しかし、コロナ対策を目的とした予算措置は今年度までであり、これに伴い次年度からは本事業が継続されないことが決定している。これは避けられないことではあるが、多くの文化芸術関係者が持続的な活動に戻るためにはまだまだ支援が不可欠である。このため、今後の文化芸術関係者の状況を鑑み、必要であれば新たな支援策の検討が求められる。</li> </ul>
B	大阪文化芸術創出事業 (大阪文化資源魅力向上事業)	<p><b>【概要】</b> 万博の開催を見据え、地域資源のさらなる魅力向上を図り、来阪者を府内各地に誘客するため、府内各地にある文化資源や地域の魅力を活用し、地元市町村等とも連携の上、文化財等を舞台とした公演等を中心とした文化芸術プログラムを行う。</p> <p><b>【実績】</b> ○大阪文化資源魅力向上事業のプログラムとして、府内市町村等と連携し下記のとおり実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪文化資源魅力向上事業（主催）：プログラム数：5件 公演数：31公演 参加者数：3,700人 ※来場者アンケートについては現在集計中</li> </ul> <p>&lt;主なプログラム&gt; 府内各地の文化資源（神社や文化財など）を舞台とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵屋花屋敷～市立枚方宿鍵屋資料館で花と雅楽を楽しもう～</li> <li>・八陣光の庭～岸和田城で歴史と光のアートを楽しもう～</li> <li>・いにしえクラシック～カトリック豊中教会で古楽器が奏でる本格派バロック音楽を楽しもう～</li> <li>・ちはやあかさか くすのきまつり～楠公誕生地で上方演芸寄席をたのしもう～</li> <li>・ファクトリーアートフェスタ in 東大阪～石切ヴィレッジでアートとJAZZを楽しもう～</li> </ul> <p>一連の事業及び舞台となった文化資源に加え、上方文化をインバウンドに訴求するためのプロモーションを実施。</p> <p>○大阪・関西万博開催を見据え、地域の文化資源の魅力を向上させ、来阪者を府内各地へ誘客するための取り組みとして、市町村等と連携し、文化資源を舞台としたプログラムを実施した。</p> <p>○文化資源を舞台とした音楽や演芸、アートなどのプログラムを府内5か所（市立枚方宿鍵屋資料館・枚方市、岸和田城・岸和田市、カトリック豊中教会・豊中市、楠公誕生地前広場等・千早赤阪村、石切ヴィレッジ・東大阪市）で開催。文化資源の魅力を広く発信できるよう、地元市町村や地元団体と連携し、文化の魅力を体験していただくイベントや、地域のイベント連動したプログラムとすることで、より多くの方々に文化芸術に触れ楽しんで頂けるよう取り組んだ。</p> <p>○例えば、市立枚方宿鍵屋資料館では、華道・雅楽の公演を行うと共に、資料館の実施する町巡りの取り組みと一体的にプログラムを展開。岸和田城では、指定名勝である八陣の庭の新たな学説を表現する光のアートを制作するとともに、市学芸員と連携した城めぐりの解説ツアーやトークイベントを実施。カトリック豊中教会では豊中市と連携し、連携協定を結ぶ音楽大学と、プロのオーケストラによる古楽器コンサートを実施。千早赤阪村では村の実施するマルシェイベントと一体的に楠公にまつわる講談などによる上方演芸のプログラムを実施。</p>

		<p>○なお、企画にあたっては各市村や大学、地域の文化芸術団体と連携し、企画を進めるとともに、企画にあたってのノウハウの蓄積を行った。</p> <p>○また、東大阪市でのプログラム（ファクトリーアートフェスタ in 東大阪～石切ヴィレッジでアートとJAZZを楽しもう～）では、企画を担う専門人材を試行的に活用し、地域資源としてファクトリーアートを打ち出すプログラムを企画・実施するとともに、令和7年度までの展開について検討を進めた。</p> <p>○本事業は大阪・関西万博開催を見据えた、令和5年度から令和7年度までの3か年の取組みであることから、来年度以降も地域の文化資源の魅力を向上させ、来阪者を府内各地へ誘客するための取り組みとして、文化資源を舞台としたプログラムを実施する予定。</p> <p>実施にあたっては、東大阪市に続き、より多くの専門人材を各地域に配置することで、市町村等との連携強化を図るとともに、地域資源に応じた、より充実したプログラムとなるよう、展開していく。</p> <p>また、東大阪市のプログラムでは、令和6年度は専門人材のノウハウを活用し、地域が自立的にアーティストを支援する体制整備を行うなど、地域が持続的に文化芸術プログラムを行えるよう、ノウハウやネットワークの蓄積を図る。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府はその広域自治体としての役割を活かし、地域の豊かな文化資源を舞台に音楽、演芸、美術など多彩なプログラムを展開した。これらの取り組みは、市立枚方宿鍵屋資料館（枚方市）、岸和田城（岸和田市）、カトリック豊中教会（豊中市）、楠公誕生地（千早赤阪村）、石切ヴィレッジ（東大阪市）の5か所で実施され、大阪府下の文化の振興と地域の魅力の再発見に寄与したと考える。東大阪市でのプログラムでは、企画を担う専門人材を試行的に活用し、地域資源としてファクトリーアートを打ち出すプログラムを実施し成功したことを追記したい。</li> <li>・3年間の計画の初年度として、事業者・専門人材や出演者の選定、プログラム内容の決定から実施に至るまでのプロセスで、短期間ながらも顕著な成果を挙げたことを評価する。</li> <li>・本事業は、大阪府内の文化資源の活用だけに留まらず、アートマネジメントの専門人材の育成にも大きく貢献することになる。大阪府内では、専門的な人材やマネジメント技術へのアクセスが難しい地域も存在するが、そこで広域自治体として大阪府が積極的に関わることにより、地域の文化資源の活用と、それを支える専門人材やノウハウの蓄積を図ることが可能になる。本事業を通して、将来的にはこれらの専門人材が中心となり、大阪の文化振興をリードしていくことが期待できる。事業の残り2年間で、この大きな目標に向けてさらなる進展を望む。</li> </ul>
B	大阪文化芸術創出事業 (文化芸術活性化)	<p><b>【概要】</b></p> <p>大阪が誇る様々な文化芸術プログラムを実施し、文化芸術活動を活性化させ、万博開催年での大規模な文化芸術祭典をめざす。併せて、インバウンドをはじめとする来阪者が文化芸術の魅力に触れ、楽しむことができる環境整備を行う。</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>&lt;大阪国際文化芸術プロジェクト&gt;</p> <p>○大阪・関西万博に向け、大阪の文化芸術の魅力発信を強化する「大阪国際文化芸術プロジェクト」として以下のプログラムを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム数：19件 ※来場者数、来場者アンケートについては、現在集計中</li> </ul> <p>[主なプログラム]</p> <p>「EXPO ART &amp; MUSIC CAMP」 万博記念公園全体を活用した音楽とアートの野外プログラム</p> <p>「大仙茶会」 大仙公園での野点と野外オーケストラによる野外プログラム</p> <p>「Enjoy! オーケストラ～銀幕を彩る珠玉の名曲たち～」 大阪を拠点に活動するオーケストラによるコンサート</p> <p>「ULTIMATE JUNCTION 2024」 大阪や世界で活躍するプロストリートダンサーやブレイクダンスのダンサーによる公演</p>

「OSAKA ART MARKET」 大阪で活躍するアーティストによるアート展示・販売会  
「立春歌舞伎特別公演」 上方歌舞伎役者と江戸歌舞伎役者が共演する歌舞伎公演  
「第四回 大阪落語祭」 大阪の落語家が一門の垣根を越えて出演する「大阪落語祭」  
「OSAKA SKIT theater」 インバウンドに向けたノンバーバルのショートプログラム  
「春の謡会 2024」 大槻能楽堂で能楽とアコースティックライブを同時に楽しめるプログラム  
など

- 万博開催年度においては、国内外からの多くの来阪者が見込まれることから、インバウンドを意識したプログラムの実施など、大規模な文化芸術祭典の実施に向けた、礎となるプログラムを展開した。  
具体的には、新たなノンバーバルのショートプログラムの創作や、プログラムと連携した旅行商品の造成、多言語での SNS や HP での情報発信、インバウンドが多く集まる場所（なんば広場など）での積極的アプローチができるプログラム展開を行い、令和 6 年度においてより発展可能な基礎を作った。
- 一方で、国内外（府外）への情報発信が不足しており、国外や府域外に視点を向けた情報発信が今後の課題。
- 本事業は大阪・関西万博開催を見据えた、令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 か年の取組みであることから、来年度以降も、万博開催時の大規模な文化芸術祭典の実現に向け、国内外からの来阪者に向けた魅力あるプログラムとなるよう、プログラムの磨き上げを図るとともに、より効果的な広報に努める。

#### <環境整備>

- 文化庁の委託事業として、インバウンドを含む来阪者が大阪の文化芸術を楽しみ、理解するための環境を整備するとともに、その効果を検証。
- ・交通拠点等におけるプロモーションの実施 3 か所（G7 大阪・堺貿易大臣会合、キュープラザ心齋橋、とんぼりリバーウォーク）
  - ・モニターツアー参加者 19 名、FAM トリップ参加者 10 名 11 月 24 日 AM～11 月 25 日 PM
  - ・クールジャパンパーク大阪夜間公演 11 月 24 日 20 時開演、来場者数 445 人（うち外国人 205 人）
  - ・山本能楽堂特別開放 11 月 27 日～12 月 10 日（12 月 3 日を除く）の 13 日間、延べ来館者数 138 人（うち外国人 26 人）
  - ・文化芸術施設・団体等を対象にしたセミナー開催全 7 回、延べ参加者数 281 名
- ※効果検証の取りまとめは 3 月に実施予定
- 山本能楽堂やクールジャパンパーク大阪での試行内容を、モデルツアー・FAM トリップ参加者を中心とした多くの外国人に体験してもらい、有益な意見を聞くことができた。
- 本事業での一連の取組みは、文化芸術団体・施設等を対象としたインバウンド受入環境整備セミナーの最終回で共有し、文化芸術事業者が持つ課題の解決に向けた糸口にしてもらうとともに、ネットワーク作りを後押しし、インバウンド事業参入のきっかけを提供することに繋がった。
- 今年度の事業を通じて、文化芸術事業者とインバウンドが抱える双方の課題を抽出することができ、その解決に向けて来年度は「受入環境の拡大」「情報の集約」「プロモーション」を事業の柱に、より多くの文化芸術事業者がインバウンド事業に参入し、その継続に繋がるよう支援を行う。

#### 【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

- ・本事業は 3 年間の債務負担の下で行われ、その 1 年目を終えた。事業者の選定から事業実施に至るまでのタイトなスケジュールにも関わらず、本事業がここまでの内容で実施できた点については高く評価する。特に、受託業者が提供する文化芸術コンテンツと運営手法が影響力を発揮し、大阪の文化芸術の魅力を中心に押し出した大規模な文化芸術祭典を創出できたことは、非常に価値がある。また、インバウンドを含む来阪者が楽しめるコンテンツになっていることは、この事業の成功を示していると考えられる。
- ・しかし、エンターテインメントと商業的な文化芸術にあまりに偏ってしまうと、文化芸術祭典の多様性と深みを損なう恐れがあり、本来の目的から逸脱する可能性があるため、気を付けてもらいたい。また、大阪の文化芸術の多様性を鑑みれば、本事業が実施される 3 年間にできるだけ多くの関係者の多様な活動を紹介することが望ましく、事業の連携先が特定の団体等に集中することがないよう留意してもらいたい。



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪において、アーティストや文化芸術団体だけでなく、アートマネジメントの分野においても才能ある人材が一定数存在し、積極的に活動を試みている。このような背景から、公共事業として、より多くの人材が関わるような環境を整えることが望まれる。多様な人材の参加を促進することで、文化芸術祭典の内容を豊かにし、大阪の文化芸術の真価をさらに引き出す事業に残りの 2 年間でさらなる発展を望む。</li> <li>・一般的に、文化芸術分野においても、フリーランスのアーティストなどは契約条件で弱い立場に立たされることが多く、そのような環境下においては、各種ハラスメントによりアーティストの文化芸術活動が阻害され、事業の質の低下をはじめとした結果を招く恐れがある。本事業に限ったことではないが、特に、数多くの事業を実施する場合は、公共事業を実施しているという高い意識の下、様々な対策を講じ、市民の信頼を得ながら、事業の成功につなげてほしい。</li> <li>・環境整備に関しては、文化庁の委託事業として、インバウンドを含む来阪者が地域の文化芸術を深く楽しむための環境整備が積極的に進められた。また、この取り組みには、文化芸術関係者へのインバウンド対応セミナーの開催も含まれており、これらの活動は大阪の文化芸術を支え、豊かにする上で非常に重要な意義を持っていたと考える。これにより、来阪者が地域の文化芸術をより理解しやすくなるだけでなく、関係者がインバウンド需要に対応するための知識を深める機会を提供していた。</li> <li>・試験的に実施された本事業について、プロモーションやモニターツアーの結果を分析し、その効果を検証することで、今後の取り組みに生かして欲しい。これらの結果から得られる洞察は、大阪の文化芸術の魅力をより効果的に発信するための戦略を練る上で不可欠である。</li> <li>・今後は、個々の文化芸術団体やアーティストだけでなく、旅行会社を含む観光業界との連携が重要であることを認識する必要がある。特に、海外観光客向けの情報発信において、観光分野で扱うべき内容が多いことから、今後は観光業界がどのように大阪の文化芸術コンテンツを観光資源として扱うか、などの方向性から事業内容を考えて欲しい。これに加え、観光分野と文化芸術分野の間でのマッチングを促す企画や取り組みが実現すれば、文化芸術の魅力を国内外に向けてより効果的に発信できるようになると考える。</li> </ul>
B	府庁本館活用事業	<p><b>【概要】</b> 府庁本館等を文化芸術活動の場として提供し、府内で舞台芸術活動を行う団体の自主的な取組を促進する。</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>○府庁本館活用事業 のべ3団体からの申し込みがあり、計3回実施。</p> <p>第1回 特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団 8月4日(金) 12:20~12:50 関西歌劇団 Presents 「サンドリヨン」によせて (府庁本館正面玄関ホール) 観客数: 80人</p> <p>第2回 『クレモナ』モダンタンゴ・ラボラトリ 11月7日(火) 12:15~12:55 『クレモナ』ランチタイムコンサート (府庁本館正面玄関ホール) 観客数: 100人</p> <p>第3回 特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団 令和6年1月17日(水) 12:15~13:00 関西歌劇団 Presents 新春によせて (大阪府議会議場) 観客数: 81人</p> <p>○フェスパ次世代シアター事業 2団体から申し込みがあったが、スケジュールの都合により1団体のみ実施。</p> <p>第1回 ハンガリーの夕べ実行委員会 7月30日(日) 11:00~11:40 音楽と絵本の会(大阪府咲州庁舎フェスパ)</p> <p>○より多くの府民に公演を鑑賞いただけるよう、公演の動画を撮影し、ダイジェスト版として文化課のYouTubeで配信を行った。</p> <p>○本事業の募集にあたり、よくある質問をホームページに掲載し、実施団体に調整事項について、イメージできるよう工夫した。</p>

		<p>○新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、文化芸術団体の活動も活発化し、今年度新たな団体からの実施希望相談もあった。(事前相談件数：6件(うち2件は新規団体からの相談))</p> <p>本事業の流れを応募団体にあらかじめご理解いただくため、次年度はホームページの内容を改善し、事業の流れを分かりやすく表示し、よくある質問を充実させることで、初めて応募する団体にも事業のイメージをつかんでもらいやすく工夫し、広く活用していただけるよう努める。</p> <p>○府庁本館活用事業では、広報期間を約1ヵ月程度設けることで、多くの方に鑑賞いただくことができた。また、公演の動画を作成し、YouTubeで配信することにより、府民の皆様へに文化芸術の鑑賞の機会を広く提供できるとともに、実施団体に対しても団体の文化芸術をPRできる素材を提供することができた。引き続き、広報期間に余裕をもたせ、実施団体の了承を得たうえでYouTube配信を継続する。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史ある府庁の建物や、より府市民に開かれた大阪府咲洲庁舎1階フェスパを文化活用する取り組みである。これにより、大阪府民の文化や芸術に関する理解を深めると共に、行政職員が日々の職務の中で文化や芸術を身近に感じられる貴重な機会を提供しており、大変意義深い事業だと考える。</li> <li>・本年度においては、実施希望相談が6件に増加し、合計で4公演が実施された。昨年度の事業評価を踏まえ、広報努力の実施がこれらの成果に繋がったと考えられるが、その取り組みを評価したい。</li> <li>・本年度は試験的に大阪府議会議場でオペラのリサイタル公演が行われ、来年度からは府庁本館の正庁の間でも公演が再び可能となる。これにより、より多くのアーティストや文化芸術団体が本事業に興味を示すことが期待される。そのためには、興味を持っている応募団体が事業の流れをあらかじめ理解できるよう、ホームページの内容を改善し、事業の流れを分かりやすく表示することが必要である。また、初めて応募する団体にも事業のイメージをつかんでもらいやすいように工夫と広報努力を継続することが重要である。</li> </ul>
B	大阪文化賞・大阪文化祭賞	<p><b>【概要】</b></p> <p>大阪の文化芸術に多大な貢献のあった方等を顕彰する。(大阪文化賞、大阪文化祭賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪文化賞：直近の1年間において、文化芸術の振興に著しい功績のあった方もしくは団体を顕彰する。</li> <li>・大阪文化祭賞：大阪の文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府内で行われた公演の中から優れた成果をあげたものに対して賞を贈呈する。</li> </ul> <p><b>【実績】</b></p> <p>○大阪文化賞</p> <p>R5.9.1 推薦受付(～9.30)</p> <p>R5.12.26 選考委員会</p> <p>R6.2.22 報道提供</p> <p>R6.3.6 贈呈式</p> <p>○大阪文化祭賞</p> <p>R5.7-8 上期審査委員会</p> <p>R6.1 下期審査委員会</p> <p>R6.1 運営委員会</p> <p>R6.3 報道提供、贈呈式</p> <p>○大阪文化賞については、推薦件数を増やすよう「Twitter・Facebookでの広報」「パンフレット配架先の増」「様式の変更」「市町村会議等へのPR」「府イベントでの周知」を行った結果、府民からの推薦が件数で30件、候補者数で12件増加した。</p> <p>○大阪文化賞・大阪文化祭賞ともに、委員からの意見を伺う際に推薦順位を明記するなどの様式の変更を行い、大阪文化賞については、令和5年度から実施し、より議論がスムーズに進んだ。(大阪文化祭賞は、</p>

		<p>令和 6 年度分から実施)</p> <p>○引きつづき本賞の知名度向上に努める。</p> <p>○受賞者にも SNS などへの掲載を働きかけ、より周知の機会を増やす。</p> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪文化賞および大阪文化祭賞は、大阪府内で活躍する文化芸術の分野で優れた業績を挙げた人々を顕彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興を図るという重要な役割を果たしている。本賞は、大阪の文化芸術の豊かさを広く証明するものであり、長い歴史を持つ顕彰として、受賞者にとっては大きな励みとなり、さらなる芸術・文化活動の発展に繋がることが期待できる。</li> <li>・大阪文化賞の推薦件数と候補者数を増やすために、X (旧 Twitter) や Facebook での広報、パンフレットの配架先の拡大、申請様式の変更、市町村会議や府イベントでの PR など、多角的な取り組みが行われた。その結果、府民からの推薦が件数で 30 件、候補者数で 12 件増加した。これらの取り組みは、推薦委員や選考委員だけでなく府民にも、大阪における文化芸術活動に意識的に目を向ける機会を提供し、大いにその意義が認められる。</li> <li>・賞の公式ウェブサイトでは、過去の受賞者の基本的な活動情報や受賞理由の確認は可能であるが、それだけに留まっている。SNS の運用は労力と時間がかかり、現実的な課題であるが、受賞者自身が SNS を活用している場合が多い今日、授賞式の写真提供や、ハッシュタグを統一して受賞者自身による本賞の発信を促すなどの取り組みが望まれる。</li> <li>・将来に向けては、実験的な表現や分野を越えた複合的な活動が賞の対象になることも望まれる。既存の表現分野の可能性を拡張するような取り組みに目を向けることも重要であり、そうした分野に詳しい審査員も迎え入れ、大阪における文化芸術の未来を担う賞となるよう検討してもらいたい。</li> </ul>
B	山片蟠桃賞	<p><b>【概要】</b></p> <p>近世大阪の生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなみ、日本文化の国際性を高めるためにふさわしい優秀な著作とその著者を顕彰する。(3 年に 1 回)</p> <p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第 27 回講演録作成</li> <li>○第 28 回実施要領及び推薦要領作成</li> <li>○第 28 回候補者募集に係る報道提供 (令和 6 年 1 月 29 日)</li> <li>○国内外の大学、研究機関、図書館、国際交流団体及び領事館など関連機関 (約 1,200 か所) に推薦依頼を発送 (令和 6 年 1 月)</li> <li>○当初のスケジュール通りに候補者の募集を開始することができた。次年度は受賞者決定に向け、審査委員会を開催予定。</li> </ul> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本賞は、大阪だけでなく日本全体が誇るべき国際的な文化賞であり、その長い歴史は大阪にとって大きな資産であると言える。多くの文化事業が地元の府民や来阪者向けに行われる中、この賞は世界中に大阪の高い文化度を発信する目的があり、その意義と重要性はますます高まっている。第 28 回の募集を迎えるまで、それが安定的に運営されていることを評価したい。</li> <li>・受賞者の功績を称える授賞式のみならず、芸術機関や教育機関と協力して一般市民や学生向けの講演会を開催することも、本事業の大きな特徴となっていると考える。これらの活動は、受賞者の功績を広く認識してもらおうとともに、「山片蟠桃賞」の知名度向上にも寄与している。</li> <li>・しかし、この賞の名前の由来であり、近世大阪が生んだ世界的な町人学者、山片蟠桃については、まだ知らない人も多いのが現状。山片蟠桃の生涯や思想、著書、そしてその功績についての情報発信も強化し、より多くの人々に彼の業績を知ってもらうことも重要である。</li> </ul>
B	大阪府アーティスト情報発	<p><b>【概要】</b></p> <p>アーティストの情報を広く府民に紹介し、地域や学校における府民の自主的な活動のサポート (申し出が</p>

	<p>信事業（バンク）</p> <p>あったアーティストの情報を随時登録)</p> <p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規登録件数：個人 6 件、団体 4 件</li> <li>○変更登録件数：個人 1 件、団体 0 件</li> <li>○全登録者数：個人 84 件、団体 84 件</li> </ul> <p>○登録希望者からの申請があるたびに、府ホームページの更新を行うことで、常に最新の情報が掲載されている状態を維持した。また、写真の掲載について積極的に依頼し、府民が見やすいページを作成した。</p> <p>○府民向け HP のレイアウトを整理し、特にスマホで閲覧する際の視認性を高めることを工夫した。</p> <p>○継続的に新規登録の申請があり、ホームページのメンテナンス効果は一定みられる。今後も定期的なメンテナンスを行い、府民が活用しやすいように情報提供する。</p> <p>○府民向け HP に掲載しているエクセルのアーティスト一覧について、アーティストの居住市町村別にソートをかけられるように修正を行い、府民が自身の地元のアーティストを探しやすくなるよう工夫した。</p> <p>○各市町村独自のアーティストバンクについて、府民向け HP に掲載する市町村のリンク先を増やし、地元アーティストに活用いただけるようにした。</p> <p>○府庁本館活用事業の出演団体募集等、府が行う文化事業の情報提供を行うことで、アーティスト活動の機会の創出を行った。</p> <p>○次年度も、府が行う文化事業の情報提供等を行い、アーティストの活動支援を継続する。</p> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は予算が付いておらず職員の手によって運営されている。そのため、ウェブサイト上での魅力的なプレゼンスを確立することは難しいと言わざるを得ない。しかし、登録アーティストに対してこまめに連絡を取り、写真や掲載内容のアップデートを行うなど、限られたリソースの中でも丁寧な運営を心掛けており、このような努力を評価したい。</li> <li>・本年度は、データベースの利用者がアーティストをより簡単に見つけられるよう、居住地や表現分野での検索がしやすいようにエクセルの改良を行い、それをホームページに掲載している。この改良により、本データベースの活用が一層促されることが期待される。</li> <li>・本データベースは、ただアーティストや団体を府民に紹介するだけでなく、アーティストや団体が大阪府を含む行政や自治体と有事の際に連絡を取る手段としても活用されることが期待できる。登録されているアーティストや団体にとっては、緊急時のコミュニケーション手段として、またライフラインとしての役割を果たすポテンシャルを持っていると考える。今後は、本データベースが持つ重要な役割をより多くの人々に認識してもらえよう、情報発信に力を入れることが望まれる。そうすることで、さらに多くのアーティストや団体が本データベースを活用し、有事の際における行政や自治体との連携がスムーズに行われるようにして欲しい。</li> </ul>
<p>B</p>	<p>上方演芸資料館（ワッハ上方）管理運営事業</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>全国で唯一の演芸資料館として、資料等の収集・保存・展示等の取組を通して、上方演芸の保存及び振興を図るとともに、府民に上方演芸に親しむ場を提供する。</p> <p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○収蔵資料を活用した展示の実施回数：年 4 回             <ul style="list-style-type: none"> <li>①常設展示「大阪弁から見る上方演芸」（通年）</li> <li>②特別展示「上方演芸の殿堂入り」名人 特別展～今こそ聞きたい！“ボヤキ漫才” みんなに愛された人生幸朗・生恵幸子～」（3/21～9/24）</li> <li>③企画展示「What is 上方演芸？～上方演芸って何だろう？～」（10/6～3/3）</li> <li>④摂津市役所での館外展示「「上方演芸の殿堂入り」名人“砂川捨丸”特別展示」（10/20～11/2）</li> </ul> </li> </ul> <p>ワッハ上方リニューアル5年目を記念し、ワッハ上方設立のきっかけとなった砂川捨丸氏について、氏ゆかりの土地である摂津市において特別展示を開催</p>

【番外編】大阪府立中之島図書館での館外広報：「上方演芸の殿堂入り」が100名となったことを記念して、これまでの「上方演芸の殿堂入り」演者のイラストパネルを展示（8/2～8/15）

○ワークショップ等の開催回数：月平均6回【2月末時点】

- ・毎月原則第1・第3土曜日に体験型講習会（ワークショップ）を開催（R5年4月15日～令和6年2月17日 30回）
- ・有識者による上方演芸講習会を開催（令和5年8月12日～令和6年2月3日 3回）
- ・在阪放送局とのコラボ企画事業を開催「爆笑！天国寄席」（令和5年7月22日 1回）
- ・毎月原則第2・第4土曜日にアマチュア演芸団体と共催事業を開催（令和5年4月20日～令和6年2月24日 31回）
- ・大阪国際文化芸術プロジェクトと連携し、万博記念公園で体験型講習会（ワークショップ）を開催（令和5年10月21日～22日 10回）

○SNS等を活用した情報発信：年287回【2月末時点】

- 電鉄会社と連携：年1回（4/14）
- 大学と連携：年3回（大阪公立大学（6/17・9/9）、関西大学（11/23））
- 府政学習会と連携（11/19）
- 第26回上方演芸の殿堂入り表彰式の開催（7/27・シティプラザ大阪）

○上方演芸の魅力伝えるため、企画展示、常設展示を実施した。企画展示については、リニューアル5年目を節目として、改めて「上方演芸って何？」という原点に立ち返ったテーマを取り上げることで、今まで上方演芸になじみがなかった方にも興味を持っていただける展示をめざした。

○また、体験型講習会及びアマチュア演芸団体による実演会を実施し、ワークショップにおいては、夏・冬休み期間等のイベント月間には、子どもや家族向けの内容にするなど、若い世代を対象にして開催した。また、子どもたちへ上方演芸に触れる機会を提供するため、同休み期間に合わせて、展示資料を活用したクイズラリーを開催するなど、様々な年齢層の来館者が楽しめる工夫をし、多くの子どもたちが参加した。その他、大阪国際文化芸術プロジェクトと連携した万博記念公園でのワークショップでも、子どもや家族を対象に内容を企画し、約480名の方に上方演芸の魅力を伝えることができた。収蔵資料を活用した有識者による講演会や在阪放送局とのコラボ企画も開催し、いずれも多くの方に参加いただき好評を得た。

○電鉄会社と連携し、近畿日本鉄道のなんば駅主催のハイキングコースにワッハ上方を設定し、新たな層の来館につながった。

○大学との連携事業として、新たに大阪公立大学の落語研究会の学生による寄席を開催した。また、関西大学とも連携し、関西大学文化会落語大学学生等による寄席を開催し、いずれも若い世代にも参加いただき好評を得た。

○さらに、今年度は新たな層の来館につなげるため、広報広聴課主催の府政学習会と連携し「府政学習会 in ワッハ上方」を開催。座学と落語の実演により、上方演芸の魅力を知っていただく機会となった。また、SNSの発信内容については、タイムリーな内容や話題性のある内容を盛り込むなど工夫し、随時情報発信した。さらに、団体来館者を取り込むため、SNSを活用した発信をするなど、来館者増や資料館の周知にも取り組んだ。

○来館者へのサービス向上として、引き続き、館内で上映している番組名・出演者等を記載したキャプションの掲出や展示資料の一覧を作成し配布した。また、来館者の満足度向上や来館者増に向けて、ワークショップ参加者でアンケートを記載いただいた方や事前申し込みいただいた団体来館者に対して、オリジナルグッズを制作し、配布した。企画展示のリーフレットは、POPなデザインに刷新し、若い世代の来館につなげる工夫をした。また、入居しているビルの1階でワークショップのお知らせを掲示するなど、漫才劇場などに来ている層にもアプローチするPRを行った。

○次年度に向けては、2025大阪・関西万博の開催の前年となることから、R6年度上半期の企画展示では、前回の大阪万博期の漫才界に関する展示を開催予定（3/15～9/23）。このため、当時を知る世代だけでなく万博を知らない世代にも楽しんでいただけるよう、キャプションや写真などで分かりやすい説明を添

		<p>える工夫を行う。また、引き続き大学との連携により、若い世代の来館を促す。</p> <p><b>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間目標として 3 件の企画展を予定していたが、実際には 4 件を実施し、さらには施設外での館外展示も行った。また、電鉄会社との連携企画や府政学習会、大阪国際文化芸術プロジェクトなど、本施設外でのイベントに積極的に参加し、新たな層の来館者につなげる努力をしていることを評価する。</li> <li>・訪問時には、職員やスタッフの生き生きとした丁寧な対応がポジティブな雰囲気を醸し出し、訪問者に好印象を与えている。</li> <li>・リーフレットのデザインを大正ロマン・昭和レトロに更新するなど、様々な年代を惹きつけるための工夫も行っている。さらに、SNS を活用した情報発信も積極的に行っており、開館日には必ず上方演芸にちなんだ内容を発信し続けている。このような取り組みは認知度の向上に貢献していると考えられる。</li> <li>・本施設は千日前に位置し、国内外の観光客が行き交う絶好のロケーションにある。そのため、大阪観光の隙間時間を利用して訪れることが可能であり、そのための観光客向けの動線を戦略的に確保することが望まれる。さらに、海外観光客を対象としたガイドツアーを定期的実施するなど、そのイベントを通して海外向けの広報を積極的に行うことも検討することができる。</li> </ul>
<p>C</p>	<p>江之子島文化 芸術創造セン ター (enoco) 管理運営事業</p>	<p><b>【概要】</b></p> <p>アーティスト等が交流・連携・協働する拠点としての機能を強化し、文化芸術の創造及び振興を図るとともに、府所蔵美術作品の管理・活用や次世代の担い手の育成にも取り組む。</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>○＜実績値（1月末現在）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来館者数（延べ）：95,942 人</li> <li>文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ人数：769 件</li> <li>enoco との創造的活動を協働した個人・団体等の数：311 件</li> <li>所蔵作品活用点数：1,124 点／年</li> <li>企画展：2 回</li> <li>貸館利用率 多目的ルーム 1～4（展示室）：57.8%</li> <li>多目的ルーム 5～12（展示室以外）：51.2%</li> </ul> <p>○センターの機能が発揮できるよう、指定管理者と定期的に打合せを行い、事業計画の推進に取り組み、企画展示やワークショップ等を開催した。また、文化芸術に関心のない人にも広く関心を持っていただくため、新たに、音楽イベントや他部局・他事業との連携した「enoco 出張ワークショップ」や「大阪・関西万博の機運醸成イベント」に指定管理者と共同して取り組んだ。</p> <p>○来年度は、指定管理者と連携し、新たな場所での展示に向けた、作品の状態確認や修復に取り組む。</p> <p>※所蔵美術作品の管理・活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術の専門家等の特別顧問・特別参与から聴取した意見を中間報告としてとりまとめた。3月の最終報告策定に向け、引き続き検討を進めていく。</li> <li>○咲洲庁舎地下駐車場から新たな保管場所に移転した作品について、著作権者や修復の専門家、指定管理者と調整した上で2月に作品状態の点検を行った。</li> </ul> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に設定した来館者数、文化芸術に関連する活動に従事した個人や団体の延べ人数、さらに enoco との創造的活動に協力した個人や団体の数、そして所蔵作品の活用点の全てにおいて、目標値を超える成果を挙げたことを評価したい。</li> <li>・文化芸術への関心が低い人々にもその魅力を広めるために、新たな取り組みとして音楽イベントや他部局・他事業と連携した「enoco 出張ワークショップ」や「大阪・関西万博の機運醸成イベント」を本施設の内外で実施し、広範囲にわたる活動を行えたことも追記したい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西を拠点にする若手アーティストと協力して開催した全5回の「こどもアーツカレッジ」は、子どもたちが自分の興味・関心・感性を尊重しながら、未体験の技法や考えを用いて作品制作に挑戦し、展示会を開くなど、地域性と芸術性を絶妙にバランスさせた内容であった。</li> <li>・しかし、大阪府が運営する現代アートの拠点として、自らの責務と宿命を再認識する必要性についても触れておく。現在、指定管理者による現代アートの文脈と、大阪で発展してきた現代アートの文脈との間には乖離が見られる。大阪の現代アートの方向性を統一する必要はないが、大阪におけるどの地域でどのようなアートシーンが生まれているのかを大阪府および指定管理者が常に意識しアンテナを張り続けることは重要である。指定管理者の強みを生かした事業方向性は決して悪くはないが、大阪で築き上げられた現代アートの文脈との大きな乖離は望ましくない。それでも、双方の方向性が異なる場合でも、お互いがwin-win の関係を築きながら、適度な距離感を保ちつつ大阪の現代アートの未来を見据えた事業を展開して欲しい。</li> </ul>
C	大阪府 20 世紀美術コレクション魅力発信事業	<p><b>【概要】</b> 大阪府が所蔵する美術作品「大阪府 20 世紀美術コレクション」（以下「コレクション」という。）を活用し、国内外に現代美術や大阪の魅力を効果的に発信するとともに、大阪への誘客や万博の機運醸成を図ることを目的に実施。</p> <p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バーチャル展示：約 100 点、デジタルアーカイブ化：2,000 点以上を令和 5 年 11 月 30 日に公開。今後、年度末までに、バーチャル展示の空間の改善や音声案内の導入、デジタルアーカイブのデータ整理等、利便性の向上を図る。（※バーチャル美術館 訪問数（2 月末時点）：6280 回）</li> <li>○定期的な SNS での発信、公民連携協定締結企業や教育機関、経済団体等への情報発信を実施できた。</li> <li>○府市が万博に先駆けて構築した都市運動型メタバース「バーチャル大阪」に、大阪バーチャル美術館の PR 動画、画像を掲載させ、双方からアクセスできるようにすることで、万博への機運醸成と大阪への誘客を図るとともに、現代美術や大阪の都市魅力を効果的に発信した。</li> <li>○その他、さらなる広報効果を高めるため、知事のメッセージ動画を作成。3 月に開催する Web 鑑賞会での上映やウェブサイト・SNS で掲載した。</li> <li>○今後もより利便性を高めるとともに、作品の良さが伝わるようなバーチャル美術館の運営に取り組む。</li> </ul> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い準備期間の中でも、目標としていたバーチャル展示とデジタルアーカイブ化を卒なく行うことができたのは、一定の評価に値する。大阪府においては、本コレクションは収蔵・展示する美術館がないため作品展示の機会が限られており、ウェブ上での鑑賞が可能となることは極めて重要である。また、アーカイブ化により、今後の活用役に役立つデータベースが形成されることも追記しておきたい。</li> <li>・バーチャル美術館については、現在のところパワーポイントのスライドを閲覧しているかのような体験に留まっており、バーチャル美術館ならではの魅力を十分に活かした仕様とは言えない。この点については、来年度以降の改善が期待される。</li> <li>・バーチャル美術館とデジタルアーカイブは、どちらも美術品や文化的資料のデジタル化という共通点を持ちつつ、その目的と特性においては異なる。バーチャル美術館は主に教育と鑑賞を目的としているのに対し、デジタルアーカイブは資料の保存と研究アクセスに重点を置くものである。このため、それぞれの活用者のニーズに合わせた広報戦略を立て、利用者の拡大に努める必要がある。</li> <li>・本コレクションには貸し出しによるリアルな展示が行われている作品がある。展示場所などの情報を提供することで、リアルな展示とバーチャル展示を連動させ、訪問者にとってより豊かな鑑賞体験を提供できるようにすることが望まる。このような取り組みを通じて、バーチャル美術館とデジタルアーカイブの価値をさらに高め、文化的資産へのアクセスを広げていくことが重要である。</li> </ul>

C	府内市町村との連携	<p><b>【概要】</b> 府内市町村に対する様々な情報の提供、文化行政担当者間における意見交換や府内での先進事例の共有、市町村と連携した文化芸術事業の実施など</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>○令和5年5月に府内市町村文化行政主管課長会議を開催し、下記内容について情報や課題の共有を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁京都移転を契機とした文化行政の展開について</li> <li>・府文化事業の紹介及び協力の呼びかけ(創出事業、ワッハ上方、enoco)</li> <li>・大阪アーツカウンシルの取り組みの紹介</li> <li>・府内市町村における事例の紹介(八尾市文化会館の改修について【八尾市】、高槻城公園芸術文化劇場の整備について【高槻市】)</li> </ul> <p>○令和5年12月に府内市町村における取組み事例集を更新し、市町村間で共有を行った。また、公表できる取組については府HPに掲載し、一般に公開した。</p> <p>○府内市町村文化行政主管課長会議の開催を通じて、文化庁の取組み紹介や、府事業、大阪アーツカウンシルの取組み、市町村における事例について情報交換の場を設けることができた。</p> <p>○また、府内市町村間の円滑な連絡体制の整備のため、各市町村の担当者連絡名簿を作成し、市町村へ共有を行った。</p> <p>○今年度も府内各市町村の文化事業を取りまとめた事例集を作成し、共有することで、府内市町村間における連携を推進するとともに、市町村が実施する文化事業の計画性や質の底上げに貢献した。</p> <p>○また、事例集を府HPに掲載することで、府民に対し市町村の取組を周知することができた。</p> <p>○次年度は、参加市町村数をさらに増やし、より多くの市町村と情報共有・連携の促進に努めるとともに、府の文化事業の紹介及び府内市町村における取組み事例集の継続作成・活用について検討する。</p> <p><b>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の事業評価を受けて、大阪府は本事業における取り組みを見直し、市町村間での情報共有を強化すると共に、一般に公開できる事例を府のホームページに掲載した。これにより、さまざまな分野での研究や調査に利用できる貴重な基礎情報が提供されたことになり、その改善を評価したい。</li> <li>・府内市町村文化行政主管課長会議では、文化芸術に関する先進事例の共有、市町村間の連携促進、文化芸術関連条例の制定及び基本計画の策定を推進することを目的としている。大阪府は、国や府の文化施策の方向性を市町村に対して示し、理解促進の場とすることで、市町村との連携をより深め、大阪の文化振興を推進して欲しい。</li> <li>・行政の職場では職員が定期的に入れ替わるため、文化芸術の公共的価値や、公共事業としての位置づけ、地域社会における役割についての理解が一貫していない可能性がある。特に、大阪・関西万博や大阪IRに向けた文化芸術の魅力を最大限にアピールする絶好の機会を迎えており、大阪全域の文化芸術のリソースとその活用方法についての共通認識を図ることが急務である。広域自治体としての大阪府は、このような課題に対応し、本事業を通して補完することができるようにして欲しい。</li> </ul>
---	-----------	--